

◆ 検討課題

- ・ 要望の諸室面積・室数を延べ面積の上限5,898㎡に収める。

豊かな自然の中で感性を磨き、優れた音楽家を育む「協奏の場」をつくります

オンリーワンの音楽教育の場と、県民に開かれたキャンパスを目指して

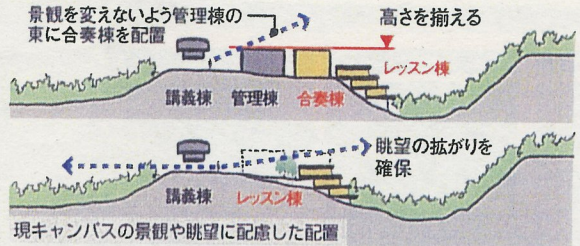
心に響く『音』を生み出す音楽教育・研究の場として、以下の4点を大切に、検討を行ないます。

- 秀でた感性を育む — 豊かな自然環境を活かす
- 豊かな人間性を育む — 出会いの場をつくる
- 卓越した技術を育む — 競い合いの場をつくる
- 世界の音楽家を育む — 世界水準の音響空間をつくる

1. 環境及び景観に対する配慮事項

「眺望の拡がり」と現キャンパスの「軸線」を大切にします

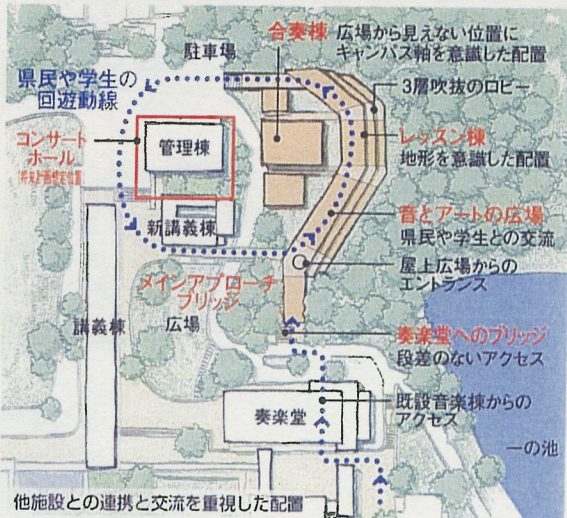
- ・ 「合奏棟」：演奏・合奏室などは高い建物となることから、現キャンパスの景観を守るよう管理棟・新講義棟の東に配置。
- ・ 「レッスン棟」：研究室・レッスン室などは、講義棟のある広場からの眺望を確保でき、自然環境へのフロンテージを広くとるよう斜面の等高線に沿って配置。
- ・ 現キャンパスと調和するよう軸線と現校舎の素材・質感等を継承。



2. 配置計画、造成計画、構造計画で重視する配慮事項

現奏楽堂・将来のコンサートホールとの連携、美術学部の学生や県民との交流を図ります

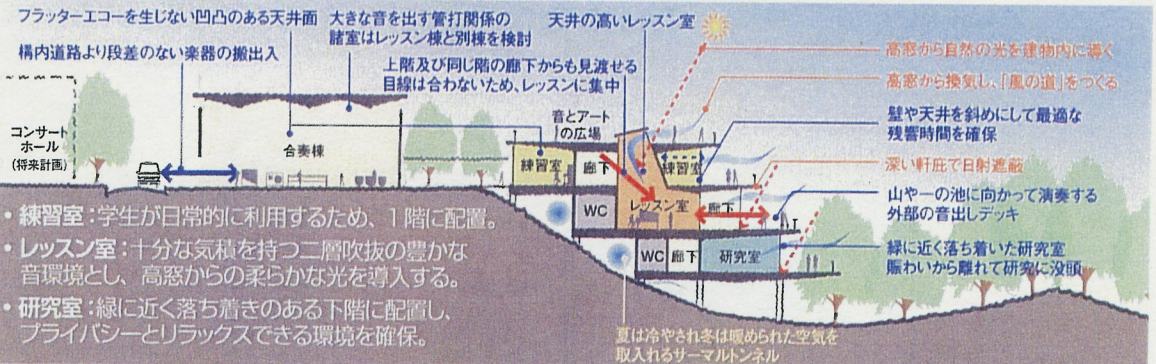
- ・ 楽器の移動がやすく、奏楽堂や既存音楽学部の施設、将来のコンサートホールに段差なくアクセスできる配置。
- ・ 構内道路から直接楽器の搬入が可能なる「合奏棟」。
- ・ 「音とアートの広場」：講義棟広場から回遊できるレッスン棟の屋根は、学生同士や県民との交流の場を創造。
- ・ 階段状の高床式構造：造成が少なくなるよう地形勾配に合わせ、斜面地の湿気から楽器を保護。



3. 施設の機能として重視する配慮事項

学生が互いに切磋琢磨する「見る・見られる」関係と優れた響きを持つレッスン環境をつくります

- ・ 練習室やレッスン室、廊下での練習姿が見合える空間構成。
- ・ 練習・レッスン・研究室は、その用途や楽器に応じた気積と内装仕上材により最適な残響時間を実現。



断面構成と環境配慮のイメージ

4. その他（コスト削減、維持管理等）の配慮事項

自然エネルギー（光・風・地熱）を活用し維持管理費を削減します

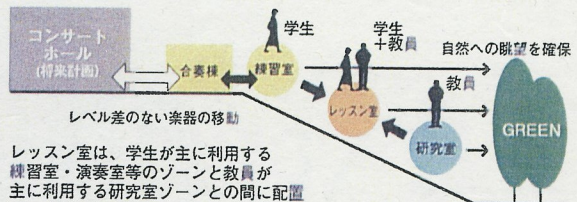
- ・ サーマルトンネル：床下の地熱を活かして空調負荷を削減。
- ・ ナイトパーズ：夜間の冷気を室内に導き、空調負荷を削減。
- ・ 奥行きが浅く自然光が入る部屋や高窓により照明負荷を削減。
- ・ 段状のテラスで窓清掃費や外装メンテナンス足場費を削減。
- ・ 高品質高強度の工場製作PCIにより、構造躯体を長寿命化。

造成の最小限化とPC構造により工期短縮・コスト削減を図ります

- ・ 階段状の高床式構造により、造成と土留壁の費用を削減。
- ・ PC構造により低騒音、低振動、工期短縮を図り授業への影響を削減。

経験豊富なチームと名古屋オフィススタッフが協働で取組みます

- ・ 音楽大学をはじめ、大学設計経験が豊富な管理技術者と設計チームに、緊密なコミュニケーションをはかる名古屋オフィスのスタッフを加えた協働体制により、質の高い校舎を実現。



造成や土留壁のない高床式構造の提案

担当者の音楽大学の実績